

令和7年度 第3回学校運営協議会 議事録

1 第3回学校運営協議会概要

日時 令和8年2月18日（水）15時～
会場 大阪府立岸和田高等学校 校長室

学校運営協議会委員

近畿大学教授	柴 浩司	様（欠席）
岸城中学校校長	松下 孝徳	様
岸城幼稚園長	小野 舞	様（欠席）
同窓会会長	岸本 敬仁	様
PTA会長	新原 康宏	様
岸和田教育ネット理事長	川崎 正博	様

学校側参加者

校 長	植木 信博
教 頭	田坂 太一
事務長	野村 文博
首 席	伊藤 功士
首 席	鈴木 研太
教 諭（進路指導部長）	長谷川武央

2 次 第

(1) はじめに（司会：教頭）

① 校長挨拶

- ・お忙しい中、第3回学校運営協議会にご出席いただき、感謝する。本日は柴委員と小野委員はご欠席である。
- ・今年度も2月となり、3年生は卒業式の予行も終え、あとは2月27日（金）に実施する卒業式に出席するのみとなった。1，2年生についても授業を終え、本日から学年末考査が始まったところである。
- ・本日の学校運営協議会では12月に実施した学校教育自己診断の結果と分析について報告した後、それを踏まえて記述した令和7年度学校経営計画及び学校評価、令和8年度学校経営計画の案についてご意見をいただくとともに、ご承認をお願いしたい。
- ・その他、1月に実施された大学入学共通テストの結果と分析、1月下旬に開催した文理課題研究発表会、そして、スーパーサイエンスハイスクール次期申請に向けた進捗状況などについて、それぞれ報告させていただく。

② 学校運営協議会委員挨拶

（委員）（松下様）

- ・中学校においても、1，2年生は学年末考査、3年生は現在、懇談の時期である。校内では府立学校の一般入学者選抜に向けた動きがある。
- ・本協議会での協議内容を、中学校での指導に生かしたい。

（委員）（岸本様）

- ・授業料無償化の影響もあるだろうが、岸和田高校を志望する生徒が減っているように感じる。より多くの生徒に集ってもらえる学校であってほしい。
- ・コシノジュンコさんが文化勲章を受章され、同窓会として記念行事の開催を進めている。

（委員）（新原様）

- ・私の子どもが3年生で、ちょうど受験前の時期である。最後まで頑張る。

(委員) (川崎様)

- ・私学の人気が高まっているようだが、岸和田高校を含め、府立高校の専門学科を選ぶ理由があるのではないかと感じている。岸和田高校の特色をさらに磨き、その魅力を発信し、「選んでもらえる学校」にしていきたい。

(2) 協議

① 学校教育自己診断の結果と分析について (校長)

【報告】

- ・資料1をご覧ください。学校教育自己診断の結果について、令和4年度から7年度まで4年間の推移が分かるように示した。ちょうど私が校長となってからの4年間の数値となる。
- ・教職員の結果について、13項目あるうちの1番と2番については校長に対する項目となる。1番の「校長は教育理念や学校経営の考え方を明らかにしている」は隔年で上下の変動が見られる。来年度は4月当初に学校の理念等をより丁寧に伝えたい。2番の「学校経営に校長のリーダーシップが発揮されている」については下降しているが、肯定率は8割を上回っており、一定の評価として受け止めている。
- ・その他は学校としての取組に関する項目となる。9割を超える項目も数多くあり、高い評価を維持していると考えている。その中で、6番の「公開授業期間や研修などを通じて、指導方法の工夫・改善に努めている」が下降しているのは取組のマンネリ化だと考えている。
- ・生徒の結果について、生徒たちには常に「楽しく充実した高校生活を送ってほしい」と伝えているとおり、14項目あるうち1番の「入学して満足している」と14番の「学校に行くのが楽しい」を重視したいと考えている。昨年度下がったが、今年度は一昨年度程度に上昇した。その他の項目については上昇したものが多くある。特に、「1人1台端末を積極的に活用している」、「困っていることがあれば真剣に対応してくれる」、「教育活動を分かりやすく伝えている」などは、この4年間、毎年上昇している。
- ・保護者の結果については、今年度全体的に大幅に上昇した。ただし、昨年度から電子フォーム回答に切り替えたことで回答率が大きく低下した。紙にマークし提出してもらっていた頃は8割以上の回収があり、電子フォームに変更した昨年度は4割、本年度は3割5分程度であったため、全体の評価を反映した数値かどうかは疑わしい。次年度は回答率向上を図りたいが、紙に戻すことは難しいため、改善策が必要である。9番の「学校行事やPTA活動に参加したことがある」は実際の感覚と合致している。また、12番の「教育活動を分かりやすく伝えている」についても校長ブログやInstagramへの関心は上がっていると実感している。
- ・自由記述について、生徒の記述は少なめだが、授業、課題量、自習室、服装、エアコン温度、行事増加に関する要望などがあった。保護者については、学校に対するお礼の言葉のほか、アンケート方法、保護者懇談、進路指導、運動部の休養日、補習・学習支援、スーパークラス、スマホ校内使用禁止、自習室・食堂など施設の老朽化、ロッカー設置、ホームページ更新、服装、部活動、行事の活発化などに関する多数の具体的な意見をいただいた。すぐに改善できる内容については、速やかに対応し、その他の意見についても検討していきたい。

【質疑応答】

(委員) 川崎 様

- ・保護者に対する電子フォームへの入力について、告知方法はどのようにしているのか。入力フォームへのリンクやQRコードを掲載したメールを送るなど、回答しやすい工夫はしていないのか。

(学校側)

- ・生徒を通じて保護者向けに、学校教育自己診断への回答に関する依頼文を配付している。また、生徒に配付したことをメールリングリストにて案内している。さらに、リマインドメールも送付しているが、メールリングリストのメール文面にはリンクやQRコードを掲載してはいない。というのもメールリングリストは誰でも登録できる仕組みであるため、詳細な情報については記載を控えている。今後はメールリングリストの運用を見直し、回答フォームへのリンクを掲載するなど、スマートフォンで回答しやすい形に改善し、回答率増加を図っていきたい。

(委員) 川崎 様

- ・岸和田高校の生徒でも、紙資料を保護者に渡さないことがあるため、保護者間で情報共有し補ったりしていた。生徒を通じた紙資料では保護者に確実に伝わらない場合がある。

(学校側)

- ・紙媒体のマークシートで行っていた時代も生徒に持ち帰らせていたが、実際に8割を超える提出があった。メーリングリストでは誰が登録しているかわからず、工夫が必要である。

(委員) 川崎 様

- ・学校からの依頼文なのでそのようなことはないと思うが、QRコードの読み取りを躊躇することはないだろうか。私自身も知らないサイトへ飛ぶのではと心配で普段はしない。

(委員) 新原 様

- ・ホームページの更新が滞っているという意見があったようだが、作成・更新の仕組みはどのようなになっているのか。

(学校側)

- ・現在のホームページを全面改訂し、新しいページに切り替える予定で、外部業者に委託している。そうした理由や更新作業用端末が今年度当初に引き上げられたこともあり、更新が滞ってしまっていた。今回の意見を踏まえ、速やかに更新し、現時点では完了している。

(委員) 新原 様

- ・ホームページを改善し伝えることができれば、アンケート回収率も向上するのではないか。

(学校側)

- ・今年度中に新しいホームページに切り替えたいと考え、調整をすすめている。

(委員) 岸本 様

- ・ロッカー設置に関する意見があったとのことだが、生徒からの要望はどの程度あるのか。

(学校側)

- ・私が校長になった4年前から、生徒・保護者からの要望は強く、前向きに設置を検討した。ただ、本校の教室や廊下は狭く、東館廊下などへの設置も検討したが、生徒全員分のロッカーを設置できるスペースは確保できない。廊下への設置は、文化祭などの際には危険を伴うため設置できず、物理的にロッカー設置は不可能という結論について、保護者に文書でも説明し、すでに理解を得たものとする。あとは中庭にロッカー室を建てることぐらいしか案はない。現状は、ロッカーの代わりに椅子の下にかごを置かせて対応している。

(委員) 岸本 様

- ・食堂・自習室が老朽化している。思い切って食堂をロッカー室にする案もあるのでは。

(学校側)

- ・食堂は利用者もあり、なくすことはできない。自習室を兼ねており、匂いを気にする生徒もいるため、改修したいとは考えている。創立130周年記念事業においてリニューアルできないか検討しており、同窓会には引き続き協力をお願いしたい。

② 令和7年度および令和8年度学校経営計画について（校長）

○令和7年度学校経営計画及び学校評価について

【報告】

- ・1ページに記載の「めざす学校像」「中期的目標」については、すでに承認を得たものであり、今回の変更はない。2ページ左側は先ほど説明させていただいた学校教育自己診断の分析を抜粋したものである。右側は第1回と第2回の学校運営協議会で出された意見をまとめたものである。下の空白の部分に、本日出された意見を記載するので、ぜひとも多くの意見をいただきたい。3月末に提出することになっている。
- ・3ページ以降の「本年度の取組内容及び自己評価」については、今年度の重点目標の各項目に関する取組計画・内容に対して立てた評価指標について、学校教育自己診断をはじめ、その他のアンケート結果などを記載したうえで、最右列にある自己評価を記載している。また、評価指標をもとに、◎、○、△のいずれかにて評価を行っている。なお、運動部員対象の研修については1回実施と記載しているが、3月2日（月）に第2回を実施する予定である。幼稚園・小学校との交流については、家庭科教員の休職もあり実施できなかった。

【質疑応答】

(委員) 新原 様

- ・重点目標については府から示されているものなのか、学校独自で立てているものか。

(学校側)

- ・府から指示されているものではなく、各学校が学校のミッションや「めざす学校像」などを踏まえて、自ら設定しているものである。

(委員) 新原 様

- ・幼稚園との交流などは府から求められているのか。

(学校側)

- ・本校の家庭科の取組として、岸城幼稚園の園児との交流や小学生を対象とした子どもクッキングなどを継続的に行っていたこともあり、「地域連携」の取組として、本校が目標に掲げたものである。

○ 令和 8 年度学校経営計画について

【報告】

- ・令和 7 年度学校経営計画から変更した箇所のみ説明させていただく。中期的目標の 3「豊かな感性」・・・の(3)の一番下の行にある※「年間の時間外在校等時間 720 時間を超える教育職員をゼロにする」を新たに追加した。これは教育庁より必ず記載するよう指示があった目標である。そして、4「社会に開かれた教育課程」の(2)ア 地域の幼稚園や小学校等との交流であったのを、小・中学校や高等学校との交流などを行う・・・と変更した。
- ・これら中期的目標の追加・変更によって、本年度の取組内容及び自己評価も追加・変更を行った。720 時間を超える教育職員をゼロにするという指標と、探究活動において、地域の高等学校との交流を 2 回以上実施という指標を新規で追加した。
- ・ちなみに、今年度、月平均 60 時間(年間 720 時間)を超える教職員は現時点で 11 名いる。土日の部活動や土曜講習に加え、教材研究や平日の部活動の時間などを考えると、年間 720 時間を超える教員をゼロにするということは極めて難しい状況である。ただ、月平均 80 時間以上の教員は昨年度の 5 名から今年度は 2 名へと大きく減少している。教員の意識改革はすすんでいる。

【質疑応答】

(委員) 川崎 様

- ・夜に学校の前を通ることが多くあるが、働き方改革が進み、夜に学校の電気がついていないことはかなり少なくなったと思う。以前(7～8 年前)は休日でも電気がついていて、夜遅くまで残っている教科・教員は限定的なのか。

(学校側)

- ・ここ 3～4 年は時間管理について強く意識させている。その結果、教員の時間外在校等時間の平均は毎年 5%以上減少している。ただ、全体の平均は下がっているが、教員により二極化が進んでいる。例えば、部活動については、夏場は 18 時 30 分まで活動するため、退勤時間はそれ以降となるなど、部活動に熱心な教員は時間外が多くなる傾向があり、負担が大きい。とはいえ、部活動の活性化は継続したい。生徒からの要望も強い。働き方改革という理由のみで部活動や講習などの業務量を削減するのは難しい面がある。何らかの工夫により、教員間の業務の平準化をめざしたいとは考えている。

(委員) 新原 様

- ・産業医面談は実施しているか。

(学校側)

- ・産業医による面談は月 1 回実施している。前月に 80 時間を超えた教員を対象として実施している。また、産業医面談を希望する教員に対しても実施している。
- ・産業医面談実施の規準は月 80 時間であったのに対して、今回の府の基準は月 60 時間、年間 720 時間であることから、対象者が増え非常に厳しい運用となる。

【承認】

- ・令和 7 年度学校経営計画及び学校評価、令和 8 年度学校経営計画について承認いただいた。

③ 大学入学共通テスト結果と分析について（長谷川）

【報告】

- ・「第一希望の進路実現」という目標に対して、1年次に実施する進路希望調査の結果を重要視し、指導をしている。ほぼすべての生徒が国公立大学の進学を希望し、7割の生徒が大阪公立大学以上の学校を目標とするため、共通テストに対する目標もこれに基づき設定し、指導をしている。
- ・全国平均点の1.2倍を一つの指標として指導している。今年度の結果については、全体の得点分布が下がり、かつ二極化が進んでいると判断できる。入学時に行うスタディサポートから、入学してくる生徒の学力については大きく変化していないことにより、この傾向は今後も継続すると考えられる。
- ・多くの国公立大学が受験教科として課す、文系6教科9科目・理系6教科8科目の受験者の減少も見受けられる。特に文系生徒でその傾向が強い。私立文系は3教科で受験が可能であることが背景にあり、1・2年次の数学や理科の定着と取り組まなければならない教科数の多さが要因であると考えられる。
- ・今年度、平均点の減少に対して大阪公立大学のボーダーラインはそれほど大きく下がることはなかった。「第一希望の進路実現」を達成するためにも、1・2年次の学力向上、特に英語・数学・国語が必要である。これまでの取組から、より一層結果が残る手立てを考え、実践していくことが重要だと考える。

【質疑応答】

（委員）岸本 様

- ・大学入学共通テスト受験者の214名は少ないと思う。7割を切るが、特に文系の生徒が減っているのではないか。

（学校側）

- ・資料に掲載している人数は「文系6教科9科目・理系6教科8科目の受験者」であり、「出願している生徒」はもっと多い。出願をしていない生徒は1割もない。
- ・私立大学は数学・理科が不要の場合があるため、文系が教科を減らしやすい状況にある。私立大学の魅力から受験する生徒もいるが、2年次から数学・理科の難易度が上がることが負担で、科目を減らす傾向もある。科目数が多いと仕上げが難しく、1・2年生のうちに国語・数学・英語をしっかり指導する必要がある。

（委員）川崎 様

- ・「情報Ⅰ」については受験者数が多いが、得点が低いのではないか。

（学校側）

- ・国公立大学を受験する生徒はほぼ全員、「情報Ⅰ」を受験することになる。他校も含めて生徒全員に対して「情報Ⅰ」の対策を行うカリキュラム（人材）が不足している。「情報Ⅰ」は自学自習で対応する部分が大きく、十分な対策が難しい状況である。

④ 文理課題研究発表会の開催及びスーパーサイエンスハイスクール次期申請に向けた進捗状況の報告について

【報告】

- ・1月24日（土）に文理課題研究発表会を開催した。2年生が1年間かけて取り組んできた研究の成果を口頭またはポスターで発表を行う。本校では9月に中間発表会、1月に最終発表会を開催している。この最終発表会では、小・中学生による発表も行っており、今回は9組の児童生徒たちが発表を行い、その会場は大きな盛り上がりを見せた。
- ・本校では生徒たちが1年セレンディピティ（SD）→2年文理課題研究→3年キャリアスタートゼミ（CS）と、3年間を通して探究活動に取り組んでいる。外部発表や地域連携と結びつけながら、生徒の主体性・思考力・発信力の育成につなげている。
- ・本校は平成23年度に文部科学省からSSH（スーパーサイエンスハイスクール）に指定され、今年度は第Ⅲ期4年めとなる。次期申請については、発展Ⅱ期・類型②「SSH-Professional」での申請を予定している。

3 令和8年度の予定

- ・第1回 6月3日（水）15時00分～
- ・第2回 10月28日（水）15時00分～
- ・第3回 2月17日（水）15時00分～

4 校長より

本日は長時間にわたり、貴重な意見をいただいたことに感謝する。意見を踏まえ改善を進めたいと考えている。今後ともよろしく願います。